

(2つのコイン系編 表を使ったやり方)

2つのコインなら表が使える (3枚以上は樹形図で)

(例題) 2枚の硬貨を同時に投げるとき、1枚は表、1枚は裏が出る確率を求めなさい。

		1枚目	
		表	ウラ
2枚目	表		○
	ウラ	○	

全部で 4 通りあることがわかった

1枚は表と1枚は裏のパターンが2つあった。

$$\frac{\text{その数}}{\text{全体}} = \frac{2}{4} = \frac{1}{2}$$

(例題) 2枚の硬貨を同時に投げるとき、次の問いに答えなさい。

(1) 走りこりうるすべての場合の数を求めなさい。

表より 4 通りあることがわかった

4 通り

		1枚目	
		表	ウラ
2枚目	表	○	✓
	ウラ	✓	

(2) 2枚とも表が出る確率。

表と表は○の1つ。

$$\frac{1}{4}$$

(3) 表と裏が1枚ずつ出る確率

表と裏は✓の2つ

$$\frac{2}{4} = \frac{1}{2}$$